

「学生による授業評価」(平成18年7月実施)報告書の概要

1. 調査の目的と意義

「学生による授業評価」調査の目的は、その実施について教員各位宛の「依頼文」で周知しているように、「この調査は、専ら、授業担当教員並びに大学が授業の実施状況を点検・評価し、その改善に資するための基礎資料を得るために実施するものであり、人事管理を目的として実施するものではありません。」に尽きる。基本的には、学生の意見や要望を踏まえて、各教員レベルの授業改善に向けた取組と努力を通じ、組織全体の教育改善と大学教育の質の向上を図ることである。すなわち、学生が自由記述も含めて、担当教員の授業内容や授業方法に対する評価を提供し、個々の教員がそれに基づき内容や方法の点を授業を自己評価し、授業改善のために努力することが主軸とされている。したがって内容・方法に関する質問項目が多数となり、目的の中で大きな位置を占めている。授業の内容が、わかりやすく説明されたか否かといった点や、難易度や進み具合、補助教材の効果等、かなり具体的で多岐にわたっている。これらの視点をさらに広く捉えるならば、アンケート調査を継続して実施することにより、教育システムの改善やカリキュラム改革のために活用することも、目的の1つといえる。また、教育環境の整備のために活用することも目的である。たとえば、教員の声や話し方の聞き取りやすさ、教室の大きさと受講生の数との関係、板書や視聴覚機材が効果的に活用できているかどうかを問う質問が、それに該当する。

さらに、副次的ではあるが、学生に自らの授業への取組、授業への出席状況や授業中の態度を含めて自己省察する機会を提供することも、本調査の目的である。授業評価アンケートは、大学としての教育力の向上を目的としているので、学生の自覚を促すことこそ大きなポイントとなる。

このように、目的が重層的であるだけに、一朝一夕に全ての課題の改善・実現は不可能で、繰り返し継続して実施することに意義がある。平成17年度後期に実施した「学生による授業評価」の報告書にも記載した本学における授業評価アンケートの具体的な目的を、ここに再掲する。

- ① 教員が自らの授業改善のための資料を得る。
- ② 学生の学習姿勢を知るための資料とする。
- ③ 学生の授業への期待のありかを知るための資料を得る。
- ④ 学生に授業履修への積極性と責任意識を喚起する。
- ⑤ 学部・学科の授業時間割、およびカリキュラムの有効性を検討するための資料を得る。
- ⑥ 大学としての教育力向上に必要な方策を立てるための資料を得る。

前述したように、「学生による授業評価」調査は、授業の改善を目的とし、授業を受けた

学生に、その授業についての率直な意見を求めるものである。学生がその目的をきちんと理解し、積極的かつ真摯に質問に応じてくれて初めて情報源として有効になる。したがって、個別科目の授業改善のみならず、大学全体の教育改革に学生の要望や意見が反映されること、さらに、大学や教員は学生からの「声」を重く受け止めているということを、折に触れて学生に発信していかなければならない。

2. 調査の実施概要

(1) 実施期間

平成 18 年 7 月 10 日～8 月 7 日¹

なお、早期終了科目、集中講義科目については、担当教員が最終日に近い日程を設定した。

(2) 対象科目

県立広島大学における平成 18 年度前期開講の全授業科目とした。但し、「学外実習科目」、「卒業論文」、通年科目については除外した。また、受講者数が 5 名未満で極端に少ない授業科目については、担当教員の判断で対象科目から除外することができることとした。

(3) 調査項目

本調査は、平成 17 年度後期「学生による授業評価」調査に引き続き実施されるものであり、継続性を重視するという観点から、基本的には、前回と同様の調査用紙を使用した。すなわち、所属等の属性のほか、質問項目は、「学生自身について」と「授業と教員について」の 2 区分で構成した。また、調査用紙は、講義・演習科目用と実験・実習科目用の 2 種類で、全授業科目に共通の質問が 13 項目、講義・演習用と実験・実習用の各々に固有の項目が 7 問、合わせて各 20 問から構成されている。回答は 4 段階評価方式（4：強くそう思う、3：そう思う、2：そう思わない、1：全くそう思わない）とした。質問 1 と 3 については別途選択肢を設けた。なお、調査方法は無記名方式とした。

(4) 学生への依頼

前回の調査と同様に、「学生による授業評価」調査は、県立広島大学のみならず、既存の広島県立 3 大学においても実施した。そのため、4 大学の全ての学生に対して本

¹ 県立広島大学は、広島県立大学、県立広島女子大学、広島県立保健福祉大学の 3 大学が統合し、平成 17 年 4 月に開学した。「学生による授業評価」アンケートは、学年暦が多少異なる新旧の 4 大学で実施したため、実施期間の設定が長くなっている。本報告は県立広島大学における教育課程についての結果報告である。

調査の概要を周知し、調査への協力を依頼した。

(5) 配布および回収方法

調査の実施に当たっては、授業担当教員が調査用紙を配布し、その回収と教学課への提出は、若干名の学生を指名し、依頼した。配布後は、学生が教員の目を気にせずに回答できる雰囲気を醸成するため、教員は速やかに退出することとした。

(6) 実施状況

県立広島大学における調査の実施状況は、表1の通りであった。また、回答数の内訳は、表2に示した通りであった。

表1 「学生による授業評価」調査の実施状況

学 部	人間文化		経営情報		生命環境		保健福祉					その他	不明	全学
	国際文化	健康科学	経営	経営情報	生命科学	環境科学	看護	理学療法	作業療法	コミュニケーション障害	人間福祉			
履修登録者数	2,591	1,113	1,838	1,391	4,266	2,262	2,235	1,120	1,089	1,215	1,646	—	—	20,766
回答者数	2,055	973	1,283	1,105	2,905	1,531	1,664	867	832	707	824	86	63	14,895
回答率(%)	79.3	87.4	69.8	79.4	68.1	67.7	74.5	77.4	76.4	58.2	50.1	—	—	71.7

注1) 履修登録者数・回答者数はいずれも延べ人数。

注2) 「その他」は、県立3大学の学生で、読替指定科目を履修した人数等。

表2 回答数の内訳

科目群	回答数
全学共通教育科目	6,580
専門科目(講義・演習)	7,816
専門科目(実験・実習)	311
教職科目	188
全学	14,895

なお、表1の履修登録者数は、指定期間に登録を完了し、その後の変更手続きがなかった者の総数で、学期の途中で授業を放棄した者を減じていない。このため、真の回答率は表1の数値より高いことが予想される。

ちなみに平成18年度における県立広島大学の在学生は、1,2年生合わせて1,216名であった。

なお、実施上の諸作業のうち調査用紙の印刷、授業科目担当教員別調査用紙の袋詰め、各キャンパスへの納品と回収、単純集計作業(学部・学科単位の集計を含む)は外部委託した。また、授業科目のデータベース作成、ならびに調査の実施手続き、回収作業等の一部については、各キャンパス教学課の協力を得て業務の円滑な実施を図った。

3. 全学集計結果と総評

(1) 分析の概要

全学集計の分析に当たっては、全授業科目を、全学共通教育科目、専門科目（講義・演習）、専門科目（実験・実習）、教職科目（平成 17 年度後期分についての調査では、開設数がきわめて少なかったため集計単位として設定していない。）の 4 群に分けた。履修登録者延べ数 20,766 名のうち分析の対象とした回答数は、全学共通教育科目で 6,580 名、専門科目（講義・演習）で 7,816 名、専門科目（実験・実習）で 311 名、教職科目で 188 名であった。分析には SPSS(ver.11.0)を用いた。

表3 回答数における前回実施分との比較

科目群	回答数	
	平成17年度後期	平成18年度前期
全学共通教育科目	4,367	6,580
専門科目(講義・演習)	3,065	7,816
専門科目(実験・実習)	697	311
教職科目	—	188
全学	8,129	14,895

平成 18 年度前期の全学回答数を平成 17 年度後期分と比較すると、学年進行に伴い約 1.8 倍に増加していた（表 3）。特に講義・演習形態の専門科目の増加が顕著で、2.6 倍に達している。一方、実験・実習形態の専門科目の多くは、後期に開講されているため、今回の回答数は減少していた。

① 基本的分析

基本的データとして、①項目別の回答数、最小値、最大値、平均値および標準偏差を科目群ごとに算出し、本項の末尾（21 頁～28 頁参照、表 13～表 16）に示した。②科目群別に 4 つの選択肢（4：「強くそう思う」～1：「まったくそう思わない」等）ごとの回答率を算出し、表 17～表 20 に示した。

② 学科間の比較

学科間の差の有意性を検討するため、調査項目のうち「総合的に判断して、この授業に満足していますか。」と「この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。」について、平均値の差の検定²（一要因の分散分析、多重比較）を行った。

² 3 つ以上の平均値の間に有意差がある時に行う。有意差がある場合、多重比較によってどの平均対の間に差があるかを調べる。（全ての平均の間に有意差があるとは限らない。）

③ 項目間の関連

質問項目別の回答間に関連性があるか否かを検討するため、各質問項目でピアソンの相関係数を算出し、無相関の検定を行った。

(2) 結果と考察

① 学生の自己評価

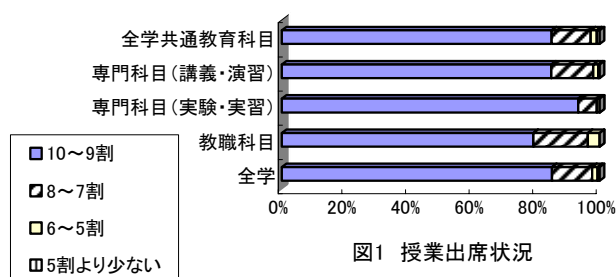
初めに学生の受講態度の一端を出席状況に見てみる。

問.「あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。」

表4および図1に学生の出席状況を示した。出席率は高く、学生は概ね積極的に参加している。特に授業形態上、実験・実習科目は課題解決型学習であり、積み上げ方式の内容であることが多いためか、93.2%の学生が9割以上出席している。これに対して、教職科目が示す数値(79.1%)は決して悪いとはいえないが、同じ講義・演習形態にもかかわらず専門科目(84.8%)と比べても、全学共通教育科目(84.9%)との比較においても有意に下回っていた。他の科目群との差異が生じた原因は何か、学生の自由記述を含めて探る必要がある。

科目群	10~9割	8~7割	6~5割	5割未満	全学(人)
全学共通教育科目	84.9	12.2	1.9	0.9	6,576
専門科目(講義・演習)	84.8	13.1	1.6	0.5	7,797
専門科目(実験・実習)	93.2	5.8	1.0	—	311
教職科目	79.1	17.1	3.7	—	187
全学	85.0	12.6	1.7	0.7	14,871

P<.01



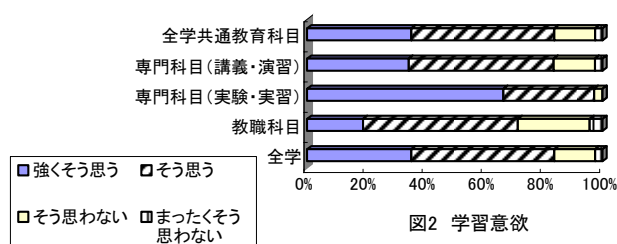
なお、本学で教員免許の取得が可能な学部・学科は、人間文化学部国際文化学科(中学1種の英語・国語・社会教科ならびに高校1種の英語・国語・地理歴史・公民教科)、経営情報学部経営学科(高校1種の商業・公民教科)、同学部経営情報学科(高校1種の情報教科)、生命環境学部生命科学科・環境科学科(中学1種並びに高校1種の理科教科)となっている。

問.「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。」

表 5, 図 2 に学生の学習意欲の結果を示した。

科目群	強くそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう 思わない	合計(人)
全学共通教育科目	35.3	48.4	13.8	2.5	6,575
専門科目(講義・演習)	34.4	49.1	13.9	2.6	7,780
専門科目(実験・実習)	66.5	30.6	2.9	—	310
教職科目	18.9	52.4	24.3	4.3	185
全学	35.3	48.4	13.8	2.6	14,850

P<.01

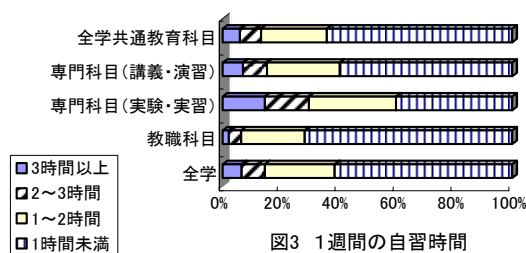


問.「この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。」

表 6 および図 3 にこの項目に関する集計結果を示した。

科目群	3時間以上	2~3時間	1~2時間	1時間未満	合計(人)
全学共通教育科目	5.9	7.4	22.7	64.0	6,557
専門科目(講義・演習)	7.0	8.3	25.1	59.6	7,789
専門科目(実験・実習)	14.6	15.2	30.1	40.1	309
教職科目	2.1	4.3	21.9	71.7	187
全学	6.6	8.0	24.1	61.3	14,842

P<.01



2時間以上の学習をしていると答えた割合は、専門科目(実験・実習)で最も多く、29.8%であった。1%水準で有意差が認められた。実験・実習科目では、課題に関する予習やレポートの提出を求められるので、学習時間が多くなるのは当然のことかもしれない。この割合に比べると、全学共通教育科目では、13.3%、専門科目(講義・演習)では15.3%、教職科目では6.4%と、少ない。一見、講義・演習科目を、学生が軽視しているかのような印象を受けるが、むしろ、学生は実験・実習科目を重要視していると、みなすのが妥当であ

ろう。その一方で、授業担当教員が学生に予習・復習等を促す工夫を、十分にしているかという点であるが、教員は時間割上の必修科目の重なり具合や、担当科目の前後に開講されている他の授業については無頓着のことが多々ある。教員にとっては、旧大学と新大学の同時学年進行と、キャンパス間の移動という過酷な移行期ではあるが、教育課程配当表や時間割編成は、本来学生主体で計画されるべきものであろう。できるだけ学生本位の体制に近づけたいものである。

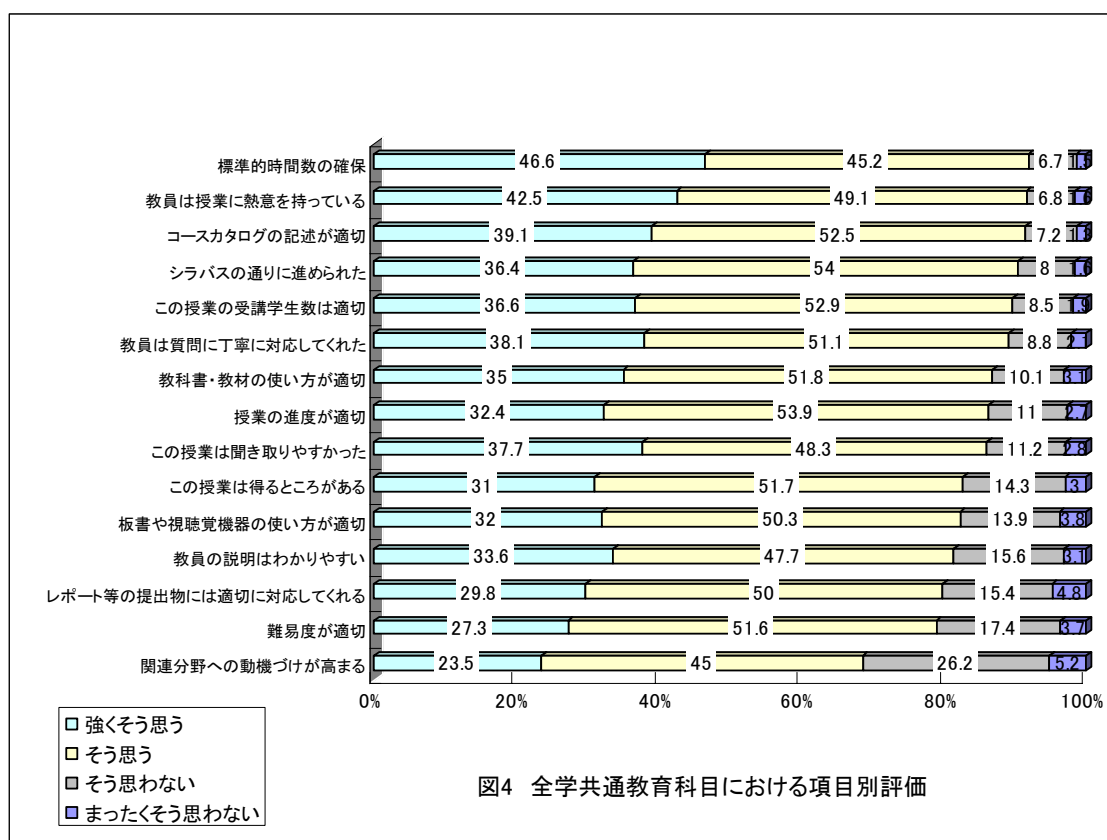
以上、本学の学生の学習態度について概観した結果、僅かな質問項目からとはいえ、まじめに学業に取り組もうとしている学生の姿勢をうかがうことができた。では、担当教員の授業内容、方法に対する学生の評価はどうであろうか。以下では、全学共通教育科目、専門科目（講義・演習）、専門科目（実験・実習）、教職科目について、それぞれの授業評価を検討する。

② 全学共通教育科目の評価

全学共通教育科目は、基幹科目、複合科目、フレッシュマンセミナー、外国語科目、情報科目、保健体育科目に区分され（但し、人間文化学部国際文化学科では外国語科目を、健康科学科では情報科目と保健体育科目を専門科目として開講している。また、国際文化学科では学科基礎教養として5つの授業科目とフレッシュマンセミナー「基礎ゼミ」Ⅱを別途開設している。）、教養的教育として全学的に実施されている。全学共通教育科目の評価を、肯定的回答が多い項目の順に、図4に示した。

「標準的な授業時間数の確保」（91.8% 肯定的評価の和、以下同様。）、「教員の熱意」（91.6%）、「コースカタログ（授業案内）の記述」（91.6%）、「シラバス（授業概要）との一致」（90.4%）等の評価が最も高く、いずれも90%以上を示している。他にも80%以上の肯定的評価を得た項目は、「質問に対する対応」（89.2%）「教科書・教材の使い方」（86.8%）、「授業の進捗」（86.3%）、「受講による収穫」（82.7%）等で、教員が学生のための授業準備物や進捗状況を考慮していることがうかがえる。また、「板書や視聴覚機器の使い方」に対しては、82.3%の学生が肯定的評価をしている。専門科目に比べて全学共通教育科目では受講生が多いため、大講義室を使う頻度が高い。こうした教育環境に即した教材の提供・準備等、教員の教育的配慮が評価に現れたものと考えられる。他方、肯定的回答率が下位の項目は、「関連分野への動機づけ」（68.5%）と「難易度」（78.9%）、そして「課題等提出物への対応」（79.8%）であった。多くの教養的教育科目は専門教育への導入的位置づけにある。大学教育における基盤形成となる重要な位置を占める領域であるにもかかわらず、そのスムーズな接続は難しい。少なくとも31.5%の学生には、「関連分野への動機づけ」までに至っていない。1つの質問肢からのみで判断できるようなものではないが、教養教育こそ学士課程の根幹であることを教員が理解しておく必要がある。提出したレポートや課題に対して、教員からなんらかのコメントを得られることが、学生のやる気を起こさせ、次の課題に取り組む意欲を育んでいく。学生の意識の啓発や学習意欲の動機づけには、地

道な継続的支援が必要であることはいうまでもない。



また、21.1%の学生は、「授業が難しすぎてついて行くのが困難」、あるいは「易しすぎてももの足りない」の、いずれかを感じている。学生の成長・発達に対応したカリキュラムの構築等に関しては、様々な議論や問題点が指摘されている³が、複数の学部・学科に同時開講されている授業の場合等、受講学生の特性や習熟度、学習態度等に差異があるほど、授業に工夫を加える必要がある。全学共通教育科目を専門科目と有機的に連携させるためにも、この点を最も考慮しなければならない。その意味で担当教員が受講生にミニツペーパーや授業の感想を書かせることは、学生の理解度を知る有効な手だてとなる。同時に授業の難易度を調節し、学期の途中でシラバスの修正を行うことにつながってくる。

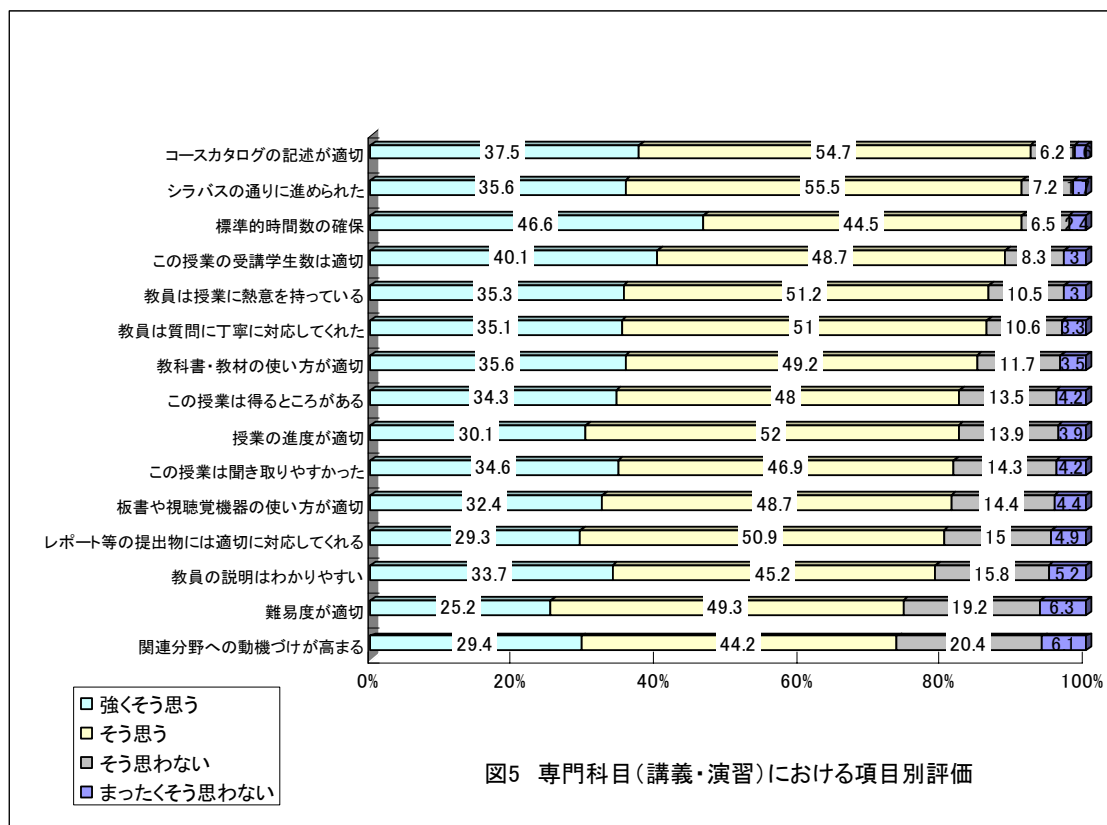
③ 専門科目（講義・演習）の授業評価

図5に、専門科目（講義・演習）の評価を、肯定的回答が多い項目の順に示した。

前述の全学共通教育科目の評価に近似している。特に上位項目評価は概ね一致しており、教員は丁寧に授業を実施していると推察することができる。しかしながら、「教員の熱意」（86.5%）と「質問に対する対応」（86.1%）の肯定的評価が、全学共通教育科目に比べて

³ 有本 章編 2003, 『大学のカリキュラム改革』 玉川大学出版部。

やや下回っている。もちろん相対的なものであって、絶対的に低いというわけではないが、専門科目においても担当教員は一層熱心かつ親切に学生に接する必要がある。



また、「わかりやすさ」(78.9%)と「難易度」(74.5%)の肯定的評価も、全学共通教育科目のそれ(81.3%, 78.9%)に比べるとやや低値を示した。専門教育科目であるだけに、担当者としてはより専門的で高度な授業を展開し、教育と研究の統合を図りたい気持ちが強く働くために陥る結果なのかもしれない。しかし、高等学校での学習暦の多様化や選択幅の拡大も直視し、学生の反応を観察しつつ教員本意ではなく学生本意の授業設計の実現が求められる。

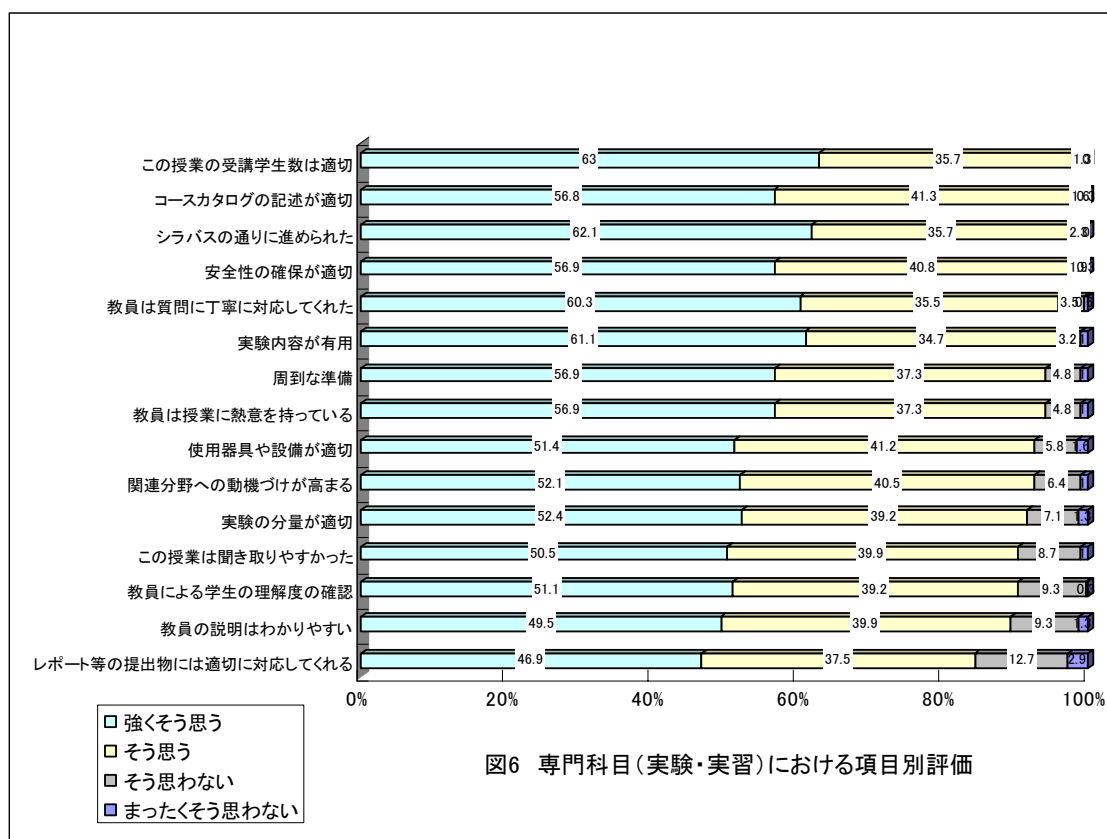
他方、「関連分野への動機づけ」に対する肯定的評価(73.6%)は、全学共通教育科目と同様、最下位の評価であった。大学の講義というものは、毎授業時間中に明解な答が出てくるといったものは極めて少なく、とりわけ人文学や社会科学の分野では、15回分の授業の中でしだいに本質的な理解が深まるような組立てがなされている。あるいは問題の所在が明らかになるように設計されている。教員はそのプロセスを、一步一步時間をかけてまとめ上げているはずである。しかし、授業の初期の段階でつまづいた学生にとっては、授業内容の理解や習熟が困難になってしまう事態にもなりかねない。かたや専門性の高い授業を強く指向する学生にとっては、易しすぎる内容は、興味を損ねてしまうことになりかねない。どのレベルの学生に授業の内容を合わせるかは難しい課題であるが、改善への努

力が必要とされよう。

④ 専門科目（実験・実習）の授業評価

図6に、専門科目（実験・実習）の評価を、肯定的回答が多かった順に示した。

実験・実習科目では、全学共通教育科目や専門科目（講義・演習）よりもさらに肯定的評価の割合が高い傾向が認められた。



15項目中13項目で肯定的な評価が90%以上であった。授業に関する周知な準備等により、量的にも無理のない安全性に留意した実験・実習が実施されていることがわかる。「実験内容の有用性」の項目も、95.8%の学生が肯定的回答をしており評価は高い。この結果から実験・実習関連の授業は概ね効果的に実施されているとみなすことができる。ただ、気がかりな点は、「課題等提出物への対応」の肯定的評価(84.4%)が、評価中で最も低いことである。厳格な成績評価を指向する限り、レポートチェックや課題の添削作業をなおざりにはできない。また、実験・実習の事後指導として学生の提出物に適切に対応することこそ、学生の動機づけを高めることにつながるため、教員はその意義を再認識しなければならない。

今回の専門科目（実験・実習）の授業評価は、少人数で実験装置もある程度整い、助手

等のサポート体制が採られた中で実施されたものが多かったため、高い評価が得られたと解釈できる。しかし、調査対象からはずれた学外実習等も含めるすべての実験・実習の教育的環境が、学生にとって十分とはいえないケースもあろう。限られた予算の中でできるだけ教育効果を上げるためには、学生のチームワークや協調性、あるいは機転とか、応用面の能力を培っていくことも重要となってくる。

⑤ 教職科目の授業評価

図7に、教職科目の評価を、肯定的回答が多かった順に示した。

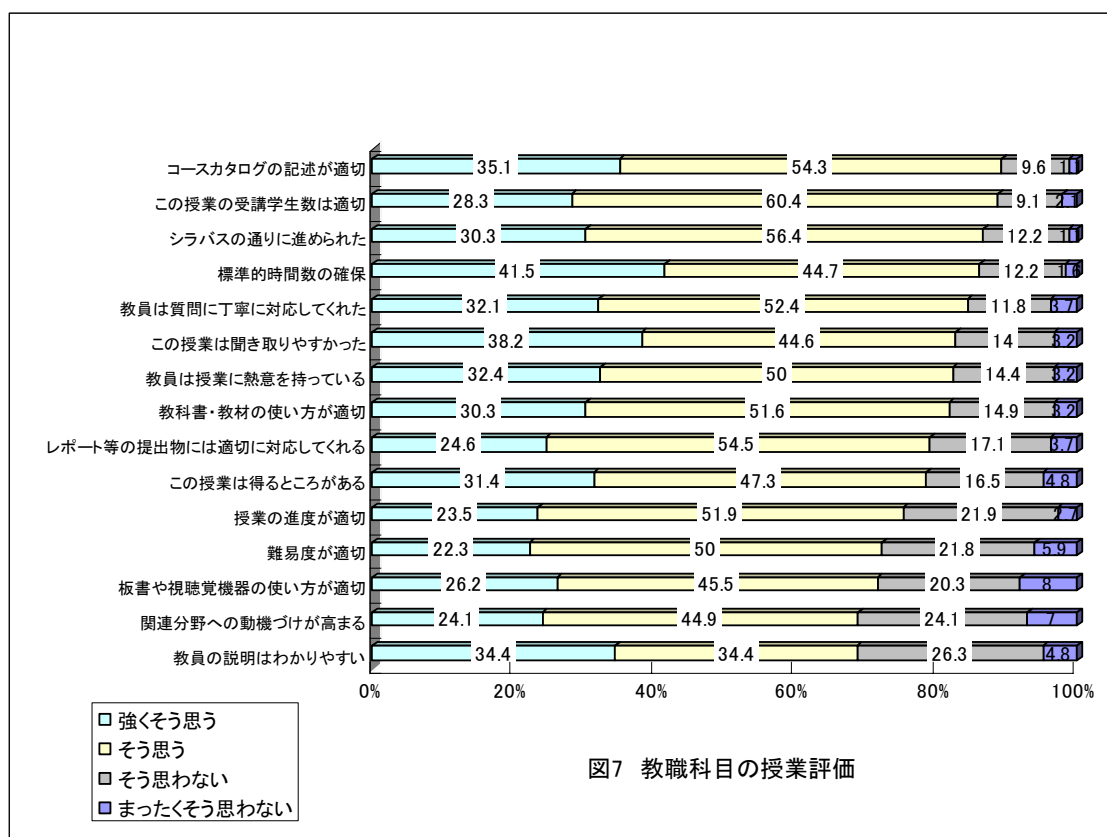


図7 教職科目の授業評価

教職科目の授業評価は決して低いわけではない。しかし、残念ながらこれまでみてきた科目群に反して、90%以上の肯定的評価が得られた項目はない。中でも授業の「わかりやすさ」(68.8%)が最も低い値を示しており、「板書や視聴覚機器の使い方」(71.7%)や、「難易度」(72.3%)、「授業の進度」(75.4%)等から、学生の理解度や反応が十分に汲み取られていないことが推察される。「関連分野への動機づけ」(69.0%)が低いのも当然の帰結と受け止められる。教員の努力にもかかわらず、それが学生に伝わっていない可能性もある。しかし、授業が双方向性のものとするならば、両者の関係が悪循環に陥ることは極力避けたいものである。教職科目の単位を取得する意義が十分に見出せないまま、惰性的に授業に出席している学生が万一いるとすれば、なんらかの授業改善を模索しなければ

なるまい。また、教職課程科目については、学生から履修上の不都合が指摘されているので、教員免許状の取得を希望する学生に応え得る時間割の編成・提示が必要である。

⑥ 授業の総合的評価

調査項目のうち、「満足度」と「後輩への受講のすすめ」の両項目は、授業の総合的評価とみなすことができる。そこで、この2項目について、全学共通教育科目、専門科目の講義・演習科目並びに実験・実習科目、教職科目の4群の集計結果の比較を試みた。表7と図8に総合的満足度を、また、後輩への推奨度の結果を表8と図9に示した。

「満足度」、「推奨度」とも、肯定的評価の割合は専門科目(実験・実習)で最も高く(95.8%, 96.1%), 教職科目で低い値(75.0%, 68.4%)を示した。両項目とも1%水準で有意差が認められた。平均値でも著差が認められ、満足度では、専門科目(実験・実習)3.54, 全学共通教育科目3.16, 専門科目(講義・演習)3.09, 教職科目2.92という結果であった(表13～表16参照)。

ただし、「満足度」や「推奨度」は様々な要素が複合的に組み合わさった結果に対する評価であり、また、教育課程上の位置づけの違い等も考慮すると、上述の差は必ずしも授業の質や完成度を反映したものではない。いずれにしても、「わかりやすくおもしろく、しかも知的な刺激を受ける」授業を、90分の中にかに構成・展開するかは、学生との真剣勝負であるといっても過言ではない。

表7 総合的満足度

科目群	満足度 (%)				合計(人)
	強くそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	
全学共通教育科目	34.2	50.7	11.8	3.2	6,573
専門科目(講義・演習)	32.6	48.6	13.6	5.2	7,806
専門科目(実験・実習)	58.2	37.6	3.9	0.3	311
教職科目	22.9	52.1	19.1	5.9	188
全学	33.7	49.3	12.7	4.2	14,878

P<.01

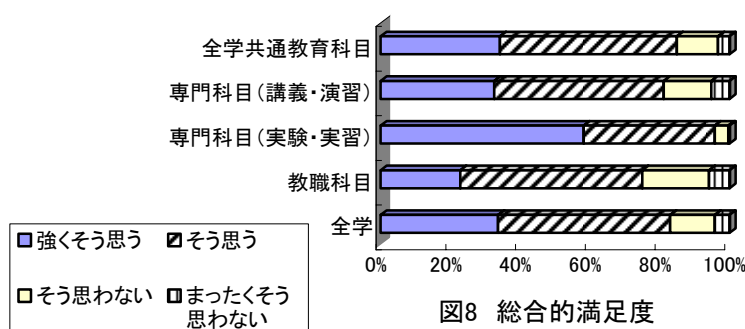
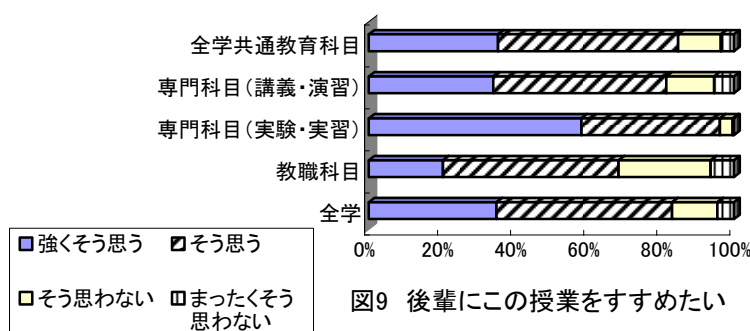


表8 後輩にこの授業をすすめたい

科目群	強くそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう 思わない	合計(人)
全学共通教育科目	35.4	49.3	11.7	3.6	6,569
専門科目(講義・演習)	34.1	47.4	13.0	5.5	7,803
専門科目(実験・実習)	58.2	37.9	3.5	0.3	311
教職科目	20.3	48.1	25.1	6.4	187
全学	35.0	48.0	12.4	4.6	14,870

P<.01



⑦ 「授業の総合的評価」に基づく学科間の比較

学科間の異同を検討するため、前項と同様、2つの調査項目について、平均値の差の検定を行い、その結果を 表 9, 10 に示した。

表9 「満足度」に対する学科ごとの度数および平均値、一要因の分散分析の結果

学 科	回答数	平均値	標準 偏差	多重比較
① 国際文化	2,053	3.15	0.75	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
② 健康科学	973	3.17	0.62	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
③ 経 営	1,282	3.13	0.74	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
④ 経営情報	1,103	3.05	0.89	① ② ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
⑤ 生命科学	2,902	2.91	0.80	① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
⑥ 環境科学	1,527	2.89	0.87	① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
⑦ 看 護	1,664	3.32	0.72	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩
⑧ 理学療法	866	3.35	0.75	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩
⑨ 作業療法	831	3.35	0.71	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩
⑩ コミュニケーション障害	706	3.18	0.74	④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
⑪ 人間福祉	823	3.39	0.70	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩

* 分散分析で用いた水準は P<.01

* 多重比較で用いた水準は P<.05

表10 「後輩への受講のすすめ」に対する学科ごとの度数および平均値、一
要因の分散分析の結果

学 科	回答数	平均値	標準 偏差	多重比較
① 国際文化	2,054	3.14	0.78	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
② 健康科学	973	3.16	0.65	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
③ 経 営	1,280	3.14	0.77	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
④ 経営情報	1,102	3.07	0.87	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
⑤ 生命科学	2,901	2.95	0.81	① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
⑥ 環境科学	1,525	2.91	0.87	① ② ③ ④ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪
⑦ 看 護	1,660	3.30	0.76	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩ ⑪
⑧ 理学療法	866	3.36	0.78	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩
⑨ 作業療法	831	3.36	0.71	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑩
⑩ コミュニケーション障害	707	3.15	0.75	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑪
⑪ 人間福祉	823	3.42	0.69	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑩

* 分散分析で用いた水準は P<.01

* 多重比較で用いた水準は P<.05

これらの結果は、授業の総合的評価における学科間の差の存在を明示している。志望する職種が明確な保健福祉学部の学生にとっては、資格に直結する実践的なカリキュラムの提供が、強い満足感を与えることは容易に理解できる。しかし、だからといって他学部・他学科の学生が、授業に不満足であるというものではない。学年が進行し、専門科目が増えるにつれて、授業に対する学生の満足度に変化が起きることは、教員が経験的に理解していることである。総合評価の平均値の差は相対的なものであって、各学部学科の教育の質の絶対的な良し悪しを反映しているものではなく、学問上の性質の違いを考慮する余地も残している。ただ、本調査における対象科目の多くが1年次に設定されており、学士課程のコアとなる全学共通教育科目であること、そしてその満足度が、専門科目満足度や授業への期待感に影響を及ぼすものであることは、十分留意されなければならないであろう。

⑧ 項目間の相関⁴

各質問項目どうしがどの程度関連しているか、その関連の強さを、講義・演習科目と実験・実習科目の別に、表 11, 12 に示した。表中の数値は、関連の強弱を示す相関係数である。比較的強い相関を示しているといえる係数値 (0.60 以上) に網掛けを付した。また、同計数値が最も高く算出された項目対は、講義・演習科目では、「授業の満足度」(C-19)と「後輩にすすめたい授業」(C-20)で相関係数は 0.85 であった。「シラバス」(B-4)と「コースカタログ」(B-5)との間で 0.76, 「得るところがある」(B-8)と「関連分野への動機づけ」(B-9)の間で 0.73, 「満足度」(C-19)と「わかりやすい授業説明」(B-6)との間の 0.72, 同様に「満足度」と「得るところが多々ある」(B-8)との間の 0.70 であった(表 11 参照)。

⁴ aおよびbという項目があった場合、aに1(低い評価)を付けた人が、皆bにも1(低い評価)を付ければ、相関は強くなる。二つの項目の数値が同じ傾向の動きをするほど相関は強くなる。全く同じ動きであれば、相関係数は1.0となり、真逆の動き(一方に1を付けた人はもう一方に4を付ける)をすれば、-1.0となる。全くバラバラであれば、相関係数は0.0となる。

表11 全学集計(講義・演習科目)における項目間の相関 <Pearson の相関係数>

0.6以上の比較的強い相関

N=14,584

項目	A-1	A-2	A-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	B-12	B-13	B-14	B-15	B-16	B-17	B-18	C-19	C-20
A-1	1.00																			
A-2	0.30	1.00																		
A-3	0.06	0.28	1.00																	
B-4	0.15	0.37	0.12	1.00																
B-5	0.13	0.35	0.11	0.76	1.00															
B-6	0.09	0.44	0.13	0.55	0.57	1.00														
B-7	0.08	0.40	0.13	0.48	0.48	0.67	1.00													
B-8	0.12	0.46	0.15	0.51	0.50	0.66	0.66	1.00												
B-9	0.08	0.44	0.18	0.44	0.45	0.59	0.60	0.73	1.00											
B-10	0.09	0.37	0.10	0.49	0.49	0.67	0.55	0.59	0.54	1.00										
B-11	0.08	0.38	0.13	0.50	0.51	0.63	0.54	0.57	0.53	0.64	1.00									
B-12	0.11	0.36	0.11	0.53	0.53	0.64	0.56	0.61	0.54	0.59	0.66	1.00								
B-13	0.11	0.38	0.10	0.53	0.52	0.64	0.57	0.60	0.54	0.62	0.61	0.64	1.00							
B-14	0.09	0.38	0.09	0.51	0.52	0.63	0.69	0.62	0.56	0.58	0.57	0.61	0.65	1.00						
B-15	0.10	0.35	0.08	0.51	0.51	0.61	0.53	0.59	0.51	0.61	0.57	0.58	0.66	0.62	1.00					
B-16	0.12	0.29	0.08	0.48	0.50	0.48	0.39	0.46	0.39	0.48	0.47	0.49	0.51	0.47	0.58	1.00				
B-17	0.07	0.35	0.15	0.49	0.49	0.57	0.51	0.53	0.52	0.52	0.56	0.56	0.61	0.55	0.57	0.49	1.00			
B-18	0.13	0.34	0.11	0.48	0.48	0.49	0.46	0.49	0.44	0.48	0.48	0.49	0.51	0.52	0.50	0.50	0.51	1.00		
C-19	0.12	0.48	0.13	0.54	0.54	0.72	0.67	0.70	0.65	0.64	0.63	0.65	0.67	0.68	0.65	0.50	0.61	0.57	1.00	
C-20	0.10	0.46	0.12	0.53	0.52	0.69	0.64	0.69	0.64	0.62	0.61	0.64	0.64	0.66	0.63	0.50	0.59	0.54	0.85	1.00

P<.01

<講義・演習科目の調査項目対応表>

A	1	授業出席状況
	2	学習意欲
	3	1週間の学習時間
B	4	コースカタログの記述が適切
	5	シラバスの通りに進められた
	6	教員の説明はわかりやすい
	7	難易度が適切
	8	この授業は得るところがある
	9	関連分野への動機づけが高まる
	10	この授業は聞き取りやすかった
	11	板書や視聴覚機器の使い方が適切
	12	教科書・教材の使い方が適切
	13	教員は質問に丁寧に対応してくれた
	14	授業の進度が適切
	15	教員は授業に熱意を持っている
	16	標準的時間数が確保されている
	17	レポート等の提出物には適切に対応してくれる
	18	この授業の受講学生数は適切
C	19	総合的満足度
	20	後輩にこの授業をすすめたい

A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

表12 全学集計(実験・実習科目)における項目間の相関 <Pearson の相関係数>

0.6以上の比較的強い相関

N=311

項目	A-1	A-2	A-3	B-4	B-5	B-6	B-7	B-8	B-9	B-10	B-11	B-12	B-13	B-14	B-15	B-16	B-17	B-18	C-19	C-20
A-1	1.00																			
A-2	0.18	1.00																		
A-3	0.06	0.17	1.00																	
B-4	0.05	0.40	0.18	1.00																
B-5	0.09	0.44	0.12	0.77	1.00															
B-6	0.05	0.35	0.01	0.57	0.60	1.00														
B-7	0.03	0.20	0.03	0.42	0.39	0.56	1.00													
B-8	0.02	0.32	0.09	0.56	0.59	0.61	0.63	1.00												
B-9	0.08	0.40	0.06	0.48	0.49	0.57	0.47	0.57	1.00											
B-10	0.10	0.31	0.08	0.54	0.50	0.48	0.50	0.51	0.64	1.00										
B-11	0.11	0.34	0.04	0.56	0.53	0.54	0.37	0.48	0.62	0.66	1.00									
B-12	0.05	0.30	0.04	0.47	0.47	0.50	0.41	0.47	0.65	0.56	0.67	1.00								
B-13	0.10	0.32	0.09	0.49	0.51	0.53	0.42	0.51	0.54	0.49	0.60	0.58	1.00							
B-14	0.00	0.19	0.18	0.38	0.34	0.36	0.30	0.35	0.40	0.41	0.42	0.50	0.38	1.00						
B-15	0.12	0.37	0.09	0.59	0.57	0.53	0.37	0.50	0.55	0.53	0.60	0.59	0.67	0.49	1.00					
B-16	0.15	0.40	0.14	0.57	0.57	0.53	0.34	0.49	0.53	0.51	0.56	0.59	0.64	0.43	0.71	1.00				
B-17	0.12	0.41	0.18	0.50	0.54	0.49	0.34	0.44	0.52	0.50	0.52	0.59	0.53	0.40	0.64	0.76	1.00			
B-18	0.10	0.39	0.07	0.48	0.58	0.49	0.35	0.44	0.50	0.43	0.51	0.54	0.54	0.34	0.59	0.63	0.53	1.00		
C-19	0.05	0.43	0.12	0.54	0.51	0.50	0.37	0.48	0.50	0.56	0.58	0.60	0.60	0.42	0.69	0.73	0.67	0.58	1.00	
C-20	0.13	0.41	0.13	0.57	0.56	0.53	0.39	0.46	0.59	0.52	0.56	0.63	0.60	0.42	0.75	0.80	0.72	0.66	0.82	1.00

P<.05

<実験・実習科目の調査項目対応表>

A	1	授業出席状況
	2	学習意欲
	3	1週間の学習時間
B	4	コースカタログの記述が適切
	5	シラバスの通りに進められた
	6	周到な準備がされている
	7	使用器具や設備が適切
	8	安全性の管理が適切
	9	教員の説明はわかりやすい
	10	この授業は聞き取りやすかった
	11	実験の分量が適切
	12	教員は学生の理解度を確認している
	13	教員は質問に丁寧に対応してくれた
	14	レポート等の提出物には適切に対応してくれる
	15	教員は授業に熱意を持っている
	16	実験内容は有用である
	17	関連分野への動機づけが高まる
	18	この授業の受講学生数は適切
C	19	総合的満足度
	20	後輩にこの授業をすすめたい

A: 学生自身の自己評価, B: 授業内容・方法の評価, C: 全般的評価

3. 総 評

本調査は、県立広島大学における平成 18 年度前期開講の授業科目に限定したものであるが、その結果から、本学における授業の実態を総括的に把握することができる。また、授業改善を要する課題がいくつか明らかになった。以下に、それらを、若干の考察を加えて列挙する。

- ① 前回の調査(平成 17 年度後期)に引き続き、高い授業出席率が示された。このことは、本調査の回収率の高さからもうかがえた。
- ② 本調査結果も、前回同様、全体的に良好なものであった。とりわけ専門の実験・実習科目においては、すべての項目に対して 80%以上の高い肯定的評価が得られた。
- ③ 総合的に本学教員は、授業に熱意を持って臨んでいると評価されている。具体的には、

標準的授業時間数が確保され、講義で使用する教科書やプリントなどの補助教材、あるいは、実験の準備等、教員の授業に対する積極的な姿勢が評価されたと考えられる。しかしながら、全学共通教育科目、専門科目等の科目群間の比較では、評価に有意な差が認められるので、受講生の規模やカリキュラム上の位置づけ等、学部や学科間でさらに詳細な要因の究明が必要である。

- ④ コースカタログやシラバスの内容は適切で、信頼できる情報として評価されている。もっともその内容が、項目やキーワードを羅列しただけの簡単な記載の場合は、学生もそれなりの受け止め方をするであろう。しかし、本来授業は刺激と反応との相互作用によって創り上げられるものであるから、軌道修正されたシラバス(改訂版)の再配布等、教員にはきめ細かな対応が求められる。
- ⑤ 授業における学生数も、ほぼ適切であるとみなされている。入学定員から判断して中規模大学の強みかもしれない。
- ⑥ 提出したレポートや課題のフィードバックが十分になされていない授業科目がある。厳格な成績評価を掲げている以上、提出物に対する判定基準や個別の評価結果の伝達等は必要条件であろう。フィードバックは、授業における双方向性の確保の観点からも、必要不可欠である。
- ⑦ 授業によっては、学生の理解度を超えるような内容のものもある。教育と研究の統合や、高い目標設定は教員のねらいとするところであるが、ここでも授業の内容や構成に無理がないか、学生の到達度と教員の期待値に齟齬が生じていないか、冷静に判断していかなければならない。そのヒントを、授業公開並びに他のシラバスや教員の授業参観から得ることもできよう。
- ⑧ 全ての学生がほとんどの授業から知的刺激を受け、学習意欲がさらに増進しているという状況にまでは至っていない。最も困難な課題であり、たった1つの評価項目で判断できるものではないが、学習意欲の喚起や動機づけは授業方法論と深く関わりをもっているため、これも教員相互の授業公開や参観により、良い刺激を受けて改善できる可能性がある。
- ⑨ 授業に対する満足度は絶対的水準でみれば高いものの、学科間には有意な差が認められた。学科の特性を尊重しつつ、満足度の高低にかかわらず評価を下げないための不断の努力(授業改善)を怠るわけにはいかない。一方で、学生からの満足度が受講時には得られなくても、高学年次や卒業後になって大変有益であったと思いつく授業は大学には数多く存在する。卒業後に、授業の本来の意味を、学生がようやく確認できる事例は少なからずある。こうした授業を正當に評価する視点も失ってはならない。
- ⑩ 学生の講義に対する満足度の評価は、「授業からの収穫」、「進度」、「質問に対する対応」、「わかりやすさ」、「難易度」等の評価と関連性があつた。「学生による授業評価」には、学生の評価能力をどう捉えるかという課題が繰り返し議論されている。とはいえ、教員が実践した授業の内容・方法・効果について、学生から発せられる貴重な情報であるこ

とも確かである。集計結果に加えてフィードバックされた学生の自由記述も、自己の振り返りや点検のためには必要不可欠な資料であるといえる。

近年、大学は、法人評価や認証評価など、大学全体として外部評価を避けては通れない状況に置かれている。そのために授業評価を実施しなければならない、という理屈も成り立つ。その意味で、「学生による授業評価」の実施は、業績測定とそれに基づく管理という目的に適いやすい。実際、大学組織改革の要である教員人事評価の問題点について、解決の方向性を検討した研究もみられる⁵。また、業績の測定・管理と教育改善は必ずしも互いを排する関係にあるわけではない、とする議論もある⁶。しかしながら、前述したように授業評価は、単に外部評価を受けるための資料としてではなく、授業改善の具体的な動きと即応させることこそ第一義である。そのためには、学期末ごとに集中的に実施されることによる学生の負担を考え、詳細な情報を得るために多様な項目を数多く設定することが、果たして適切かどうかを再考する必要がある。すなわち、授業評価に結びつく必要な情報をいかに的確で簡潔な内容（調査項目）で収集するかを、検討していかなければならない。

他方、授業の改善は学生との協同作業でもある。学生による授業評価の記入内容の信頼性を高めるためには、教員に学生を特定できないような措置を取りながら、記名式の調査用紙を採用して学生の記載者責任の自覚や増進を促す工夫も考慮されるべきであろう。あるいは、各授業科目における達成度を、コースカタログやシラバスに記載し、その結果を問うことで学生の自己評価としての機能を高めることも考えられる。総合教育センターは、こうした授業への学生の主体的参加を促す方策を模索しながら、授業の改善に資する情報を得るための調査を、今後も引き続き実施していきたい。

⁵ 佐々木恒夫・齊藤毅憲・渡辺峻編著 2006, 「大学教員の人事評価システム」中央経済社。

⁶ 天野智水 2006, 「学生による授業評価を概観する」有本 章・北垣郁雄編著『大学力』ミネルヴァ書房, 282-287 頁。

表13 全学共通教育科目における項目別の評価値

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	6,576	1	4	3.81	0.50
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)	6,575	1	4	3.16	0.75
3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)	6,557	1	4	1.55	0.87
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。	6,563	1	4	3.29	0.65
5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	6,566	1	4	3.25	0.67
6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。	6,390	1	4	3.12	0.78
7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	6,387	1	4	3.03	0.77
8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました	6,391	1	4	3.11	0.75
9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。	6,392	1	4	2.87	0.83
10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。	6,571	1	4	3.21	0.75
11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。	6,377	1	4	3.10	0.78
12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。	6,379	1	4	3.19	0.73
13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。	6,548	1	4	3.25	0.70
14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	6,390	1	4	3.16	0.72
15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。	6,562	1	4	3.33	0.67
16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。	6,386	1	4	3.37	0.68
17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	6,312	1	4	3.05	0.80
18 学生数は適切でしたか。	6,568	1	4	3.24	0.69
●授業の総合的評価 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)					
19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。	6,573	1	4	3.16	0.75
20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。	6,569	1	4	3.17	0.77

注：表中の平均値は、回答した選択肢、例えば「全く思わない」を1点、「そう思わない」を2点、「そう思う」を3点、「強く思う」を4点として算出した。数値が大きいほど肯定的と認識されている。表14~16も同様。

表14 専門科目(講義・演習)における項目別の評価値

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	
●学生自身についての質問						
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	7,797	1	4	3.82	0.45
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)	7,780	1	4	3.15	0.75
3	この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)	7,789	1	4	1.63	0.91
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)						
4	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。	7,799	1	4	3.28	0.65
5	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	7,799	1	4	3.25	0.66
6	理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。	7,803	1	4	3.07	0.84
7	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	7,807	1	4	2.93	0.83
8	この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました	7,802	1	4	3.12	0.80
9	この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。	7,808	1	4	2.97	0.86
10	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。	7,808	1	4	3.12	0.80
11	黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。	7,798	1	4	3.09	0.80
12	教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。	7,803	1	4	3.17	0.76
13	教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。	7,794	1	4	3.18	0.75
14	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	7,801	1	4	3.08	0.77
15	教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。	7,801	1	4	3.26	0.73
16	教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。	7,799	1	4	3.35	0.71
17	教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	7,700	1	4	3.05	0.80
18	学生数は適切でしたか。	7,794	1	4	3.19	0.74
●授業の総合的評価 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったく思わない)						
19	総合的に判断して、この授業に満足していますか。	7,806	1	4	3.09	0.81
20	この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。	7,803	1	4	3.10	0.82

表15 専門科目(実験・実習)における項目別の評価値

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	311	2	4	3.92	0.30
2 あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	310	2	4	3.64	0.54
3 この実験のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)	309	1	4	2.04	1.07
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。	310	1	4	3.55	0.55
5 実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	311	2	4	3.60	0.54
6 この実験はよく準備されていて、予定の実験が円滑に進められたと思いましたか。	311	1	4	3.50	0.64
7 使用した器具や設備は良いと思いましたか。	311	1	4	3.42	0.68
8 安全管理に対する配慮が十分になされていましたか。	311	1	4	3.54	0.55
9 教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思いましたか。	311	1	4	3.38	0.71
10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。	311	1	4	3.40	0.69
11 授業時間数に対して、実験項目数は適切でしたか。	311	1	4	3.43	0.68
12 実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。	311	1	4	3.41	0.67
13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。	310	1	4	3.55	0.60
14 教員は、あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	307	1	4	3.28	0.80
15 教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。	311	1	4	3.50	0.64
16 実験内容はあなたにとって有用でしたか。	311	1	4	3.56	0.61
17 実験内容に関連したことを、さらに勉強してみようと思いましたか。	311	1	4	3.44	0.66
18 学生数は適切でしたか。	311	2	4	3.62	0.51
●授業の総合的評価 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。	311	1	4	3.54	0.59
20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。	311	1	4	3.54	0.58

表16 教職科目(講義・演習)における項目別の評価値

項 目	回答数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	187	2	4	3.75	0.51
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	185	1	4	2.86	0.77
3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)	187	1	4	1.37	0.67
●授業と教員についての質問 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。	188	1	4	3.23	0.66
5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	188	1	4	3.16	0.67
6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。	186	1	4	2.98	0.90
7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	188	1	4	2.89	0.82
8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました	188	1	4	3.05	0.82
9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。	187	1	4	2.86	0.86
10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。	186	1	4	3.18	0.79
11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。	187	1	4	2.90	0.88
12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。	188	1	4	3.09	0.76
13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。	187	1	4	3.13	0.76
14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	187	1	4	2.96	0.75
15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。	188	1	4	3.12	0.76
16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。	188	1	4	3.26	0.73
17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	187	1	4	3.00	0.75
18 学生数は適切でしたか。	187	1	4	3.15	0.66
●授業の総合的評価 (4:強くそう思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。	188	1	4	2.92	0.81
20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。	187	1	4	2.82	0.83

表17 全学共通教育科目における選択肢別回答率

項 目	回 答 率 (%)				回答数
	4	3	2	1	
●学生自身についての質問					
1 あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)	84.9	12.2	1.9	0.9	6,576
2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)	35.3	48.4	13.8	2.5	6,575
3 この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)	5.9	7.4	22.7	64.0	6,557
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
4 コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。	39.1	52.5	7.2	1.3	6,563
5 授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。	36.4	54.0	8.0	1.6	6,566
6 理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。	33.6	47.7	15.6	3.1	6,390
7 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	27.3	51.6	17.4	3.7	6,387
8 この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました	31.0	51.7	14.3	3.0	6,391
9 この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。	23.5	45.0	26.2	5.2	6,392
10 教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。	37.7	48.3	11.2	2.8	6,571
11 黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。	32.0	50.3	13.9	3.8	6,377
12 教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。	35.0	51.8	10.1	3.1	6,379
13 教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。	38.1	51.1	8.8	2.1	6,548
14 あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。	32.4	53.9	11.0	2.7	6,390
15 教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。	42.5	49.1	6.8	1.6	6,562
16 教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。	46.6	45.2	6.7	1.5	6,386
17 教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。	29.8	50.0	15.4	4.8	6,312
18 学生数は適切でしたか。	36.6	52.9	8.5	1.9	6,568
●授業の総合的評価 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
19 総合的に判断して、この授業に満足していますか。	34.2	50.7	11.8	3.2	6,573
20 この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。	35.4	49.3	11.7	3.6	6,569

表18 専門科目(講義・演習)における選択肢別回答率

項 目	回 答 率 (%)				回答数
	4	3	2	1	
●学生自身についての質問					
1	あなたはこの授業にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)				7,797
2	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)				7,780
3	この授業のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)				7,789
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
4	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。				7,799
5	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。				7,799
6	理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。				7,803
7	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。				7,807
8	この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました				7,802
9	この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。				7,808
10	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。				7,808
11	黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。				7,798
12	教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。				7,803
13	教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。				7,794
14	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。				7,801
15	教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。				7,801
16	教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。				7,799
17	教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。				7,700
18	学生数は適切でしたか。				7,794
●授業の総合的評価 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
19	総合的に判断して、この授業に満足していますか。				7,806
20	この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。				7,803

表19 専門科目(実験・実習)における選択肢別回答率

項 目	回 答 率 (%)				回答数
	4	3	2	1	
●学生自身についての質問					
1	あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)				311
2	あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)				310
3	この実験のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)				309
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
4	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。				310
5	実験の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。				311
6	この実験はよく準備されていて、予定の実験が円滑に進められたと思えましたか。				311
7	使用した器具や設備は良いと思えましたか。				311
8	安全管理に対する配慮が十分になされていましたか。				311
9	教員の説明やプリントの内容はわかりやすいと思えましたか。				311
10	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。				311
11	授業時間数に対して、実験項目数は適切でしたか。				311
12	実験は学生の反応(理解度)を確認しながら進められていましたか。				311
13	教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。				310
14	教員は、あなたが提出したレポートに対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくださいましたか。				307
15	教員が授業(実験)に熱意を持っていると感じられましたか。				311
16	実験内容はあなたにとって有用でしたか。				311
17	実験内容に関連したことを、さらに勉強してみようと思えましたか。				311
18	学生数は適切でしたか。				311
●授業の総合的評価 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
19	総合的に判断して、この授業に満足していますか。				311
20	この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思えますか。				311

表20 教職科目(講義・演習)における選択肢別回答率

項 目	回 答 率 (%)				回答数
	4	3	2	1	
●学生自身についての質問					
1	あなたはこの実験にどのくらいの割合で出席しましたか。 (4:10~9割, 3:8~7割, 2:6~5割, 1:5割より少ない)				187
2	あなたはこの実験に意欲的に取り組みましたか。 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)				185
3	この実験のために、授業時間以外の学習を1週間あたり何時間くらいしましたか。 (4:3時間以上, 3:2~3時間, 2:1~2時間, 1:1時間未満)				187
●授業と教員についての質問 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
4	コースカタログ(授業案内)等で授業の目的、内容、成績評価の基準は適切に示されましたか。				188
5	授業の内容はシラバス(授業概要)のとおりに進められましたか。				188
6	理解すべき重要な箇所が強調されるなど、授業の説明はわかりやすかったですか。				186
7	あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。				188
8	この授業により、自分の考えが培われるなど、得るところがありました				188
9	この授業により知的な刺激を受け、さらに関連する分野を学んでみたいと思いましたか。				187
10	教員の声、話し方は聞き取りやすかったですか。				186
11	黒板、視聴覚・情報機器を使用する授業の場合、使い方は適切でしたか。				187
12	教科書やプリントなどの補助教材は、授業内容の理解に役立ちましたか。				188
13	教員は学生の質問に丁寧に対応してくれましたか。				187
14	あなたにとって授業の進度は適切なものでしたか。				187
15	教員が授業に熱意を持っていると感じられましたか。				188
16	教員の遅刻や休講がなく、標準的な授業時間数(90分×15回)が確保されていましたか。				188
17	教員は、あなたが提出したレポートや宿題に対して適切な対応(アドバイス・評価等)をしてくれましたか。				187
18	学生数は適切でしたか。				187
●授業の総合的評価 (4:強く思う, 3:そう思う, 2:そう思わない, 1:まったくそう思わない)					
19	総合的に判断して、この授業に満足していますか。				188
20	この授業科目の受講を後輩にすすめたいと思いますか。				187